

# the People

元気なまちには 元気な主張を続け  
元気に行動する 市民がいる

the people (ザ・ピープル)

2014年 8月1日発行

発行：特定非営利活動法人 ザ・ピープル

代表者：吉田 恵美子

所在地：福島県いわき市小名浜字蛭川南5-6  
タウンモールリスポ内

TEL：0246-52-2511 FAX：38-9538

E-mail：the-people@email.plala.or.jp

URL：http://www.iwaki-j.com/people/

## 水俣に学ぼう!



7月21日、今年度水俣に派遣する中高生のための第1回事前研修会がありました。これは、本会が熊本県玉名市のNPO法人れんげ国際ボランティア会の協力のもと震災の翌年から実施している事業で、今年で3回目の派遣になります。いわき市明日をひらく人づくり基金助成事業でもあります。既に市内の9校(高校および高等専門学校5校・中学校4校)から、16名を派遣することになっています。

当日は、ほとんどが見ず知らずの状態が集まってきた生徒の皆さんですが、早速街に出てそれぞれ気づいたことをレポートし合うワークショップなどを行い、早くも打ち解けて意見を交わせるようになってい

ました。「地震の影響だろうか、未だに道路に割れ目がある」「新しい建物が急に沢山立って街が活気づいている」「歩道のベンチ。本当なら人が座るためのものはずなのに、ブルーシートで覆われていた。鳥の糞のせいだろうか?どうすればいいんだろう」...たった20分でも彼らの目を通して見えてくるものは沢山ありました。

このあと、2回の事前研修会と避難所生活体験などの活動を経て、水俣に向かうことになります。また、熊本県玉名市では地元の中学生との交流が、熊本市では熊本県知事表敬訪問が計画されています。

今年度の水俣への派遣期間は8月18日から23日まで。彼らが何をいわきに持ち帰ってくれるのか、とても楽しみです。

この事前研修会に合わせて、水俣から今の福島へ届けたいメッセージ...記録映画「のさり 杉本栄子の遺言」(西山正啓監督2014年 80分)の上映会を企画しています。この映画は、2008年に亡くなった水俣病語り部の杉本栄子さんの足跡をたどる作品で、「水俣病はのさり(授かりもの)」と語り、苦難を前向きにとらえた姿を紹介しているものです。

- と き:8月10日(日) 17:00~
- ところ:ラトブ6F産業創造館セミナー室
- 参加費:無料 [いわき市明日をひらく人づくり基金助成事業]

上映終了後に水俣病センター相思社・水俣病歴史考証館スタッフ永野三智さんとの懇談会も予定されています。どうぞ奮ってご参加ください。



## ピープルトラックがアートに!

7月18日から20日まで、3日間かけてザ・ピープルの古着回収用トラックに素敵なペイントが施されました。描いて下さったのは、先日コットン栽培のボランティアとして来て下さったフリー美術作家 前川加奈さんと宮沢麻子さん。その時に、「絵を描く事でお手伝いできることがあれば...」というお話を頂いて、その場で描いて下さるようお願いしたのです。先日納車になり、動き出したばかりのトラックに「ピープルらしくて街が元気になる絵を描いて下さい!!」と

雨にたたられながらも、ピープルの古着倉庫の中にトラックを入れて、ペンキだらけになりながら描き続けて下さって、漸く完成しました。

この絵を見ると誰もが笑顔になってしまうようです。この会報がカラーでないのが残念です。市内でトラックを見かけたら、応援宜しくお願いします。



## 三度目の正直 小名浜地区復興支援ボランティアセンターが引っ越しました

本会が震災直後ボランティアセンターを立ち上げてから3年4ヶ月が過ぎました。最初に立ち上げた小名浜地区災害ボランティアセンターでは、3ヶ月間で約3,000名のボランティアを受け入れ被災地の瓦礫の撤去等にあたりました。その後、場所を変えて小名浜地区復興支援ボランティアセンターをスタートさせましたが1年半で移転せざるを得ませんでした。再度移転した場所は大通りに面していないため大型バスは入れませんでした。2年間の借地期限が迫るなか次の移転先を探し廻っていましたが、7月(株)マルトさんのご協力で230坪の広さの敷地をお借りすることが出来ました。小名浜の中心市街地で、大通りに面しており、大型バスも入ることが出来ます。事務局棟のほか今までの2倍の広さの研修施設も設置することが出来ました。一度に50人のボランティアの研修会も開催でき、今までの課題を一気に解決することができました。研修施設としての利活用を希望される方はピープル事務局にお申し込み下さい。



最近の詐欺事件の多さには呆れるばかりである。今年の初めに発表された振り込み詐欺の被害総額は440億円。しかも前年より220億円も増加しているという。届けても戻らないと届け出すに困る方もあると考えると莫大な金額になる。いまや警察ばかりでなくあらゆるメディアを通して様々な方法で注意を呼びかけているが一向に減る様子がない。ニュースを聞くたびに「どうしてみなさん騙されるのかしら、私は絶対騙されないよ」と言っている人達でも引っかかるのだから余程巧妙な手口になってきているのだと思う。「オレオレ詐欺」は詐欺事件のはしりの形。7年前私自身この手の事件に遭遇している。夜遅く絞りに出すような噂の電話が入った。「もしもしオレ」「どうしたのその声」「いろいろあるって体調崩してしまっただけだ。相談に乗ってほしいことがあるんだけど、疲れしているから今夜は早く休むよ」と電話を切った。息子からの電話は夜10時過ぎが多いからこの時点では疑う余地はなかった。むしろ彼の体調の方が気になった。翌朝早くお嫁さんに体調のことを聞いてみた。「風邪なんてひいてません元気ですよ」との事。約束どおり変更したという携帯にすまして電話を入れた。相変わらずの噂の電話。吹き出しそうになるのを堪えながら話を聞いていた。現金の受け渡しにまで話が及んだ時点で「あなたオレオレ詐欺だね」と言った。途端に電話は切れた。私自身オレオレ詐欺っぽいとは思いつつも息子の声と思っただけだし、内容によっては何とかしてあげなければと考えたことも確かである。彼がもし独り身で誰にも確認のしようが無かつたらひっかかっていったかもしれない。詐欺が横行し成功する原因の一つはこうした、子供の窮地を思う母親の心理が上手く利用されているからだと思う。だが最近の詐欺は変幻自在に形や内容を変え、なりすまし詐欺のつくりかたや内容が増えつつある。先頃すっかり落ち込んでいた友人が「老後の預金が増えるならいいかな」と思い振り込んだら詐欺だった」と明かしてくれた。独り身の彼女は誰にも相談せず預金通帳の多くを振り込んでしまったのだ。またつい最近、80歳を過ぎた身近な独り暮らしの知人も数十万円を騙されてしまった。子供たちにも迷惑を掛けたいために老後の預金を少しでも増やしておこうと思う親心。高齢者が犠牲となるケースが多い。私はしばし友人と詐欺に怒りと悔しさをぶつちけた後こんな話をした。「お金は戻ってこないんだから切り換えましょう。蔵の財より心の財第一」という言葉があるの。これからは信じられる友人を沢山作って、何時でも何でも相談しながら生きていくことが大事よね」と自分に言い聞かせながら励ました私である。